



公務員 / 学芸員

西宮市教育委員会 文化財課  
西宮市立郷土資料館

## 森下真企さん

啓光学園高等学校 (現・常翔啓光学園) 出身  
2007年文学研究科 博士課程前期課程修了

遺跡を納得できる形で、残したい。  
そのために、今も「ひたすら勉強中」。

西宮市に流れる夙川にほど近い西宮市立郷土資料館が、学芸員、森下真企さんの職場です。森下さんは資料館内で、展示する発掘物や資料の調査、整理をする一方、実際に遺跡の発掘調査にも出向くと言います。西宮市内で古墳や門前町などの遺跡の発掘にあたり、市民に公開するため、調査をするのだそうです。

森下さんが考古学に携わるようになったのは、大学時代に史学・地理学専修で興味を持ったのが始まり。「考古学研究室に入り、在学中は三田やエジプトなどの発掘に参加しました」と話し、エジプトでの印象深いエピソードを続けてくれました。「現地の人に命綱を託し、遺跡の墓に通じる穴につるされたまま図面を描いたのはつらい思い出です」。そう言いつつも笑顔でいるのは、その経験が決してつらいだけでなく、自身にとって大切なものであったことを物語っています。

「遺跡は本来なら発掘などせず、そのまま残すのがベスト。でも、なかなか難しい」。森下さんの夢は、発掘調査で基本的には消失してしまう遺跡を自分の納得できる状態で残し、時代を超えて後世に伝えることだそうです。そのためには「日々勉強」と、今でも何か疑問があれば、学生時代から広がったネットワークを利用したり、大学の先生に質問をしたりしています。「大学での学びや経験、そこで得た人脈は将来、必ず役に立ってくれます。学芸員を目指す人には充実した大学生活を送ってほしい」と、森下さんは実感を込めて語ってくれました。

ある1日の  
スケジュール

- 8:00 出勤、仕事の準備  
展示室のチェックなど
- 10:00 展示室開館  
事務処理作業
- 12:00 昼食・休憩
- 13:00 発掘物を含めた資料整理
- 16:00 事務処理の続き
- 17:30 退社
- ※発掘現場へ行く日は終日作業の後、  
報告と日誌の記載



発掘のための必需品。ヘルメットやスコップの他、土の色を見るための色彩見本なども。